

石巻健育会病院

症 例 概 要 患者：70代 男性

病名：右脳梗塞

入院期間：令和4年11月 ～ 令和5年1月

経過：令和4年10月下旬起床時に左上下肢に脱力感あり、タクシーでI病院救急外来受診、CT上異常なく手足も動くので経過観察として自宅へ帰院。しかし翌日同様に左上下肢の麻痺あり、かかりつけ受診したところすぐにS病院を紹介・受診。MRIにて脳梗塞と診断され入院。同年11月中旬に復職を目指したりハビリテーション目的で当院回復期病棟へ転院となる。

内 容

元々両膝変形性関節症を有しており徐々にADLに支障が出始めていたところに今回の発症で更には身辺動作が困難となっており、膝折れの危険性が強くADL全般で一部介助を要していた。(FIM64点:運動39点、認知25点)。

ご本人、ご家族共に自営業への復職希望があり、歩行獲得後、徐々に復職を目指す方針としていたが、ご本人は早期復職希望が非常に強く「12月までに何としても帰りたい」と訴えていた。支えられた状態ですら頻回に膝折れしてしまう状態であり、しっかりとリハビリをしてほしいというご家族の言葉も耳に入らず「それならもう店には立たない、どこにも行かないしずっと寝ている、それならいいだろう!」と訴えるなど、焦りや不安から現状を受け止められていない状態であった。

短期間での復職は現実的ではなかったが、ご本人の思いを尊重し、どの範囲なら復職が見込めるかを明確にし、できるだけ早期の復職を目指していくこととした。仕事が気になってしまうご本人に病棟中心に精神的な支援を行い、出来るようになったこと、仕事の内容や店舗・業務の状況をご本人・ご家族・職員で共有し徹底して自宅・店舗に寄せた環境で訓練を行った。

徐々に精神的にも安定し「おにぎりなら座りながらでも握れると思うんです」など、復職を現実的に考えられるようになった。

最終的には歩行車と伝い歩きで歩行・ADLが自立 (FIM115:運動84点、認知31点)。復職も実際に動けるか不安はあったが当院訪問リハでフォローすることで早期退院に結び付けることが出来た。

復職後は地元テレビ局の取材を受けている姿がニュース番組で放送されることになった。そこに映っていたのは入院中の不安な表情ではなく、店主としての凛とした顔であった。例え困難な状況であってもご本人の思いに寄り添い諦めずに関わること、病前から大切にしてきた役割・場所へ戻ってもらうこと

で再び輝けることの素晴らしさを再認識した症例であった。